

広報 しんち

1月1日現在
1,957世帯
男 4,299人
女 4,446人
合 計 8,745人

83号

53/2



駒ヶ嶺字町（駒小3年）
寺 島 美 奈 子

私のお母さんは少しこわい
だけど やさしい時もある
どこかへでかける時
おしゃれをする
太っているから
少しまーっとになりたいという
元気だから
私は太ったお母さんでもいい
朝“時間だよ”といつて
おこしてくれる
学校のしたくを
いつまでもしないと
ヒステリーをおこす
ヒステリーが終ると
やさしい
だから好きです
わらっている顔が
いちばん好きです

〔一男二女の母、孝子さん、
いつも笑顔がたえない〕

今月の主な記事

水田利用再編対策	2
119名が大人の仲間入り	3
年金だより	4
町民グラウンド着工	5
おしらせ	6

年金の請求は なつ ○障害

五三二 寺山一なります

第三回

の請求」があつて、初めて支給されます。

税務だより

申告はお早めに

申告はお

所得税・贈与税の 申告始まる

明会や相馬税務署などでござい。

所得税や贈与税の申告時期にな
りますと、「にせ税理士」が横行し
ます。にせ税理士は、法律に違反す
るばかりでなく、納税者に迷惑を
かけることが多いので税務署で
は排除に努めています。申告手續
きなどを初めて税理士に依頼する
かたは、正規の税理士かどうかを
確かめてください。

着々進む

春日井市

町民グラウンドは、町民のスポーツ振興と体力増進をねらいに、五万三千平方㍍の敷地に野球場、運動広場（陸上競技場）、体育館、バレーボールコート、テニスコートを建設しようというものです。今年度は買収済の三万八千平方㍍の敷地造成を行い、ひきつづき五十三年度で、残りの一万五千平方㍍の買収、造成を行うことにしています。また、施設建設は、五十四年度から年次計画で整備する方針です。工事に先立ち、一月十二日、現

町史への誘い

明治の夜明け③

明治五年二月、日黒重真は、「宇田郡村学校設立願書」を宮城県出張所に提出した。

これは、仙台地方、福島地方を含め一步先んじた行動であった。

この願書の中に「人材教育仕候儀、方今専務と存し奉り候」とあるように、新しい日本の基本

は教育であるとした重真の達見によるものだつた。

こうして、字新地の水戸荘吉隱宅を仮校舎として同年三月に氏家閑存の長男昭麿(十五歳)が、閑存の代理として来村して教授に当つた。

学校設立については、小泉平策、大堀門治、松谷昌平等が日黒重真に積極的に協力した。

四月には中島の黒田嘉久治郎宅を正式に学舎とし、五月に閑存が

来村して開校式を行つた。伊達慶邦(樂山)公から「観海堂」の三字をたまわつた。

観海堂での閑存はまず札記(儒学の原理を説いた書の一つ)の学

記章、六月には養老の章を講じやくした。亘理から駒ヶ嶺までの人たちが教えを受けた。この中には、

大堀宗吉、清野雄父、小泉卯太郎、水戸庄造、日黒兵英、高野孟矩、

各大学区を三三中学区とし、各中学校区を二一〇小学区とし、それぞれの学区に、各一つの大中小学校

を設置することになつてゐる。

小学校は義務制で、六年

歳より四年間を下等、十歳より四年間を上等とした。宇多郡は、亘理、名

取、刈田、柴田、伊具などの五郡とともに第三中学区に属してゐた。

なお、駒ヶ嶺でもいちはやく胎動し、明治五年六月五日に金龍院

を校舎として小学校を創設した。

学問への道が開いた新地方部の

人々は、やがて自由民権運動に、

日黒重真を中心としてはなばなし

い活動が展開されてゆくのである

初滑りに歓声

***スキー教室開催

地で起工式が行われ、町関係者をはじめ、工事をうけもつ陸上自衛隊松尾第十一施設群副隊長、片平胞吉福島地方連絡部長らも出席しました。神事のあと、町長と福島駐どん地第三一二施設器材中隊の池田包光作業隊長がくわ入れを行い、工事の安全を祈願しました。

工事は池田作業隊長ほか二十八名の隊員が母子健康センターに宿泊しながらあたっており、大型アルドーザ一六台、中型アルドーザ一台、スクレーバー二台を導入して、三月には第一期造成工事を終える予定です。



新地歌壇

新地歌壇

枯れつきて風吹くままに乱れ伏す
秋海棠を刈り重ね置く

楓の葉は額に触れ足元に
落つるを踏みて尾根の道ゆく

朝の陽を浴びつつ活けし初花の
紅かがよいて窓の辺静か

丘の辺に群れとぶひわの声通り
寒に入る日の陽ざし移ろう

豊漁の願いを胸に秘めもちて
初日を拌む渚に佇ちて

消防団社頭に凜し整列の
祈禱捧ぐる清しき朝

荒

広川美沙子

佐藤 一汀

日黒美津英

小松 栄子

岡元 三郎

宮西 とく

共になじみて新年祝う 佐藤 利子

消防の出初のラッパひびくとき 空晴れ渡り銀翼光る

還暦の夫を出湯に招きたる 片平とし子

子等のゆかしき心はうれし 日黒ます代

好みいし人參喰わせわが愛馬も

兵器とともに敵に渡しね 水戸 幸作

ののさまと教えし月を今宵また 幼き孫はみんとせがみぬ

太田智恵子

目はすでに見えざるもののかまさぐ
りて いまはの吾子は母の顔なづ



予選出場者七十三名中四名
が本番に臨み、夏の山唄を
唄つた菅谷の佐久間質さんが、
新地町民謡名人の座を射止め
ました。



▶本番には町内から二名が登場。岡の宇佐美秀幸さんはふだんの実力が發揮できず惜敗。

